

令和4年度アクション・プラン【丹波県民局】

I 目指す姿

引き続き「丹波の森宣言」の4つの宣言に基づく住民・事業者・行政が一体となった地域づくり（丹波の森づくり）が進んでいる。その結果、神戸から約50km、大阪・京都から約60kmと京阪神大都市の近郊にありながら、豊かな自然、景観、伝統文化が息づき「日本の原風景」とも称されている丹波地域。

①既に全国ブランドである黒大豆や大納言小豆、栗などに加えて、地域の宝である農産物をさらに育成・情報発信することで、世界的なブランドとしての確立が進んでいる。②併せて、国内外旅行者のニーズの変化に対応して、「恐竜化石」や「里山」、「源流の里（水分れ）」といった特有の地域資源も活用した、体験・滞在型ツーリズムの普及が図られている。③また、IT・ロボット等の先進技術や、空き家・廃校等の遊休資産の活用が、集落活動の衰退や農業の担い手不足といった地域課題の解決に有効であると広く認知され、地域との連携を前提とした企業立地や起業が進んでいる。

こうした丹波の森づくりの推進により、交流人口や移住・定住者が年々増加するとともに、地元住民と一緒に活躍する姿があらこちらで見られることとなり、自然と織りなす豊かなライフスタイルが実現できる地域、そして賑わいあふれる「オシャレな田舎TAMBA」として輝いている姿を目指す。

【目標】

数値欄の上段(網掛)は目標値、下段は実績値

KPI	現状	R2	R3	R4	R5	R6
年間入込客数 (うち宿泊客数)	H30	4,700千人 (237千人)	4,750千人 (243千人)	4,800千人 (249千人)	4,900千人 (254千人)	5,000千人 (260千人)
	4,683千人 (225千人)	3,634千人 (140千人)	R4年秋頃 公表予定			
農林水産業に活気を感じ る人の割合	R1	18.0%	18.0%	19.0%	19.0%	20.0%
	17.2%	19.8%	19.0%			
先進技術や遊休資産を 活用した年間起業数	H30	8箇所	8箇所	10箇所	12箇所	14箇所
	7箇所	12箇所	R4年5月頃 判明			
しごとと生活の両立が できている人の割合	R1	75.0%	75.0%	75.0%	75.0%	75.0%
	74.8%	72.6%	74.3%			
年間移住者数(管内2 市の移住窓口経由)	H30	120人	120人	120人	120人	120人
	120人	225人	R4年5月頃 判明			
これからも住み続けたい 人の割合	R1	75.0%	77.0%	78.0%	79.0%	80.0%
	74.3%	69.0%	76.5%			
自然環境が守られている と思う人の割合	R1	52.0%	54.0%	56.0%	58.0%	60.0%
	50.4%	57.1%	55.9%			
災害への備えが以前より 確かだと感じる人の割合	R1	44.0%	46.0%	47.0%	49.0%	50.0%
	42.5%	43.2%	39.2%			

II 取組の方向性

「丹波の森づくり30周年記念シンポジウム」(H30.11)において、人口減少社会や革新技术の浸透、世界的な人・モノの交流といった新たな時代・環境変化も踏まえ、丹波の森宣言【宣言1~4】(S63.9)に基づく今後の取組の方向性が提示された。

【宣言1】丹波の健全な発展をそこなうような自然破壊は行わず、森を大切に守り育てます。

◇丹波らしい土地利用を進めるとともに、農地を守り育て、集落の暮らしを大切に守り抜く。

◇山や川、水辺を守り育て、野生動植物と共生する(生物多様性を育む)。

【宣言2】丹波の自然景観を大切にし、花と緑の美しい地域づくりを進めます。

◇丹波らしい景観形成を進めるとともに、「たんば三街道」の修景等、地域全体で来訪者をもてなす。

◇丹波の森のシンボルとなる公園や身近な里山等を活用した自然体験プログラムを提供する。

【宣言3】丹波の文化景観及び歴史的遺産を大切にし、個性豊かな地域文化を育てます。

◇城下町や門前町、宿場町の街並みや、デカンショ節・丹波焼といった日本遺産、加えて恐竜化石や25年以上続く「シューベルティアードたんば」等の豊かな地域資源や文化を次世代へと継承する。

【宣言4】丹波の素朴さと人情を大切にし、安らぎと活力に満ちた地域づくりを進めます。

◇丹波の森づくりを進める人材や事業者を地域内外から集めるとともに、その連携・支援体制を整備する。

◇丹波ブランド農産物を育成し、全国ひいては世界的なブランドとして確立する。

◇体験・滞在型旅行者のニーズを捉え、丹波ファンを拡大し、交流を促進する。

◇豪雨災害の経験と教訓を踏まえ、安全安心な地域をつくる。

III 具体的な取組(主なもの)

1 体験・滞在型ツーリズムの推進

兵庫丹波ブランド農産物などの産物や食文化、暮らしや生業の中に魅力、暮らす人、つくる人の思いを五感で体感できる旅を提案するとともに、地域資源を活かしたユニークなコト体験プログラムの充実などによりマイクロツーリズムを推進する。

【主な事業】

① 食文化ツーリズムプロジェクト《新規・2,000千円》

- ・ 五感で体感できる旅「丹波の食文化ツアー」を大学等と連携して造成する。

② 四季の丹波「コト体験」の充実《2,420千円》

- ・ コト体験コンテンツのブラッシュアップ等支援

③ 「兵庫丹波チャレンジ200」サイクルツーリズムの推進《5,395千円》

- ・ 「兵庫丹波チャレンジ200」サイクリングイベントの開催
- ・ 自転車走行環境の整備 等

2 ブランド農産物・特産物の創出

兵庫丹波ブランド農産物の高付加価値化や新たな食加工品の開発・販売を支援するとともに、先端技術による生産管理の軽労化など、スマート農業の確立とその普及拡大を推進。

【主な事業】

- ① 兵庫丹波ブランド農産物の魅力発信《拡充・8,802千円》
 - ・ フードビジネス相談会の開催
 - ・ 6次産業ステップアップ講座等の開催、各種ブランド農産物フェア開催 等
- ② 先端技術等を活用したスマート農業の推進《拡充・11,810千円》
 - ・ 地域連携型スマート農業シェアリングシステムのモデル実証
 - ・ スマート農業機械の導入支援等

3 地域住民と起業家・先進企業との連携推進

民間企業、経済団体（商工会等）、大学、行政、市民・NPO等からなる産学官民のネットワーク形成を進め、地域イノベーション・エコシステムの構築を図る。

【主な事業】

- ① “シリ丹バレー”プロジェクトの推進《拡充・6,412千円》
 - ・ シリ丹バレー推進協議会の運営、DX推進セミナーの開催
 - ・ クラウドファンディング活用支援、メンター登録制度の創設
 - ・ 女性のための起業セミナー等による多様な働き方の支援

4 移住・環流の促進

たんば暮らし実践者が、都市部の若者や子育て世代へ直接語り合う機会を設けるなど、より細やかな情報発信を進め、たんば暮らしの多様性、可能性をアピールする。

【主な事業】

- ① 移住・環流プロジェクトの推進《拡充・8,815千円》
 - ・ たんば暮らしファン交流カフェの開催
 - ・ お試し滞在への支援の実施
 - ・ 移住コーディネーターの配置

5 里山づくり・源流の里づくりの促進、個性豊かな地域文化の育成

丹波の森づくりの次世代への継承を目的とした住民参加型の取組を推進する。また源流の里ならではの景観や水辺空間を更に身近に感じてもらえる親水環境を整備する。

さらに「篠山層群」とその周辺地域を「野外博物館」と位置づけ活動する「丹波地域恐竜化石フィールドミュージアム」の取組を推進する等個性豊かな地域文化の育成に努める。

① 丹波の里山づくりの促進《継続・4,481千円》

- ・ 丹波の里山づくり育成研修会の開催
- ・ モデル団体の活動支援等
- ・ 里山資源等を活用した交流企画の検討

② 源流の里の親水空間づくり《拡充・1,000千円》

- ・ 生物多様性に配慮した河川環境整備と観察施設等の整備
- ・ 野生生物の生態を踏まえた堤防保全

③ 桜つつみ回廊の再整備《継続・4,000千円》

- ・ 桜つつみ回廊の樹勢回復対策及びPR動画作成

④ 恐竜化石フィールドミュージアムの推進《拡充・6,172千円》

- ・ 恐竜子どもサポーターの募集
- ・ オンラインによる恐竜化石等解説講座や剖出体験（化石クリーニング）
- ・ 恐竜化石発掘地や篠山層群ゆかりの地を巡るモバイルスタンプラリーの実施
- ・ 出前化石発掘体験会（アウトリーチ事業）

6 安全安心の向上

地域防災力の向上に取り組むとともに、保健・医療や福祉、防犯などの暮らしの安全安心のための取組を進める。

【主な事業】

① 地域防災力の充実強化《継続・1,403千円》

- ・ 「1.17は忘れない」地域防災訓練等推進事業

② いくつになっても元気いっぱいプロジェクト《継続・612千円》

- ・ 健康体操に必要な資材の購入等経費を助成